

平成29年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	40	学校名	静岡県立科学技術高等学校	校長名	遠藤 克則
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生徒の集中した取組を推進し、日常の学習習慣を定着させ、基礎力を伸張する。	10時間達成80%以上	【61.3%】 目標達成には至らなかったが、昨年と比較すると若干ではあるが、達成率は上昇している。	B	テスト前の学習は集中して時間を掛けて行うが、日常の学習時間が確保できていない生徒が多い。学習に対する意識付けを継続的に実施する。・部活動と学習の両立ができない生徒が多くいる。時間の使い方や進路実現に向けての学習方法を継続して指導していく。3年生は、進路決定後の目標設定が課題である。
	生徒のニーズに対応した進路指導体制の充実を図る。	紹介求人希望者の卒業式までの内定率100%	【100%】 就職希望者は2月の初旬で全員内定達成。	A	公務員を希望する生徒が不合格となった場合の心のケアが課題。
		A0・推薦・一般入試での国公立大学合格者60人以上	・1月末で、A0・推薦による国公立大学の合格は難関大学を含め工業科27名、理数科16名の合計43名となった。 ・スタディサプリを理数科の全学年に導入し、教科指導に活用した。	A	・小論文や面接などの個別指導が多く、各教科、各学科の先生方の協力をいただいた。 進路希望の多様化が進み、先生方の負担が増えている。 ・スタディサプリを使い、宿題配信する先生方が増え、県内74校で5番目に多い配信数であった。
	文武両道を推進し、部活動と学習の両立を図る。	部活動に積極的に参加し効率的な活動をしている生徒80%以上	【70%】 限られた時間の中で効率的な活動を行い、全国大会、東海大会出場をはじめ、県大会での入賞など多くの部活動で成果を納めることができた。学習面との両立を意識している生徒の割合も多い。	B	部活動への加入率も高く、職員の熱心な指導もあり、部活動の大会や進路実績では素晴らしい成果を上げることができているが、生徒個々を見ると、家庭学習の時間がまだ少ない生徒も多いため、家庭との連携を深め、生徒の意識を高める工夫をしていくことが今後必要である。
イ	あらゆる場面において、考えさせる力を伸ばす指導をする。	授業に主体的に取り組んでいると答える生徒80%以上	【80.9%】 アンケートの結果、主体的に取り組んでいると答えた生徒が80.9%となり目標の80%以上を達成することができた。	A	放課後、休業中も自習室を開設し利用を促し、主体的に学習に取り組めるように支援した。目標を0.9%上回ったにすぎず、80%を大きく上回る生徒が主体的に取り込めるように「アクティブ・ラーニング」の視点での授業改善や学習の場を考えていきたい。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		外部機関と連携した取組5グループ以上	各学科で外部機関と連携して様々な事業を実施した。理数科は静岡大学FSSやふじのくに地球環境史ミュージアム等と連携した。県主催の事業に41名参加した。	A	・外部機関との連携をしやすい環境づくりを進めた。生徒個人、課題研究のグループなどで外部機関と連携することができた。
		全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞	・若年者ものづくり競技大会（旋盤部門）優勝・ジャパンマイコンカーラリー2018全国大会出場・ものづくりコンテスト東海大会出場（測量部門） ・自然科学部が県大会で最優秀賞 等	A	・外部機関（講師）との連携を深化させ、全国大会・東海大会等の上位大会での入賞者の増加を目指す。
		高度資格への受験者数20%以上	・工業科は、国家資格や技能検定にはほぼ全員が受検し、高い合格率であった。 ・理数科は実用英検の準2級で55名、2級で6名合格。来年度入学生からGTEC等の英語外部検定を導入する。	A	・上位の資格に挑戦し、合格する生徒を増加。 ・実用英検の準2級合格者は増えているが、2級合格者が増えていない。運動部の生徒の受験率を向上させる。GTEC等の受験、指導体制を整備する。
	教職員の資質・能力の向上に努める。	あすなる、教育研修会、自主研修への参加60%以上	【50%】 あすなる、教育研修会、自主研修への参加率が高くなるように、様々な研修を職員に紹介してきた。	B	研修への参加率が約50%であった。来年度以降も研修への参加を促したい。
ウ	グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。	参加者が「充実していた研修ができた」80%以上	【100%】 海外研修参加者の満足度は高く、「充実した研修ができた」と大半の生徒が実感した。	A	日系企業見学や授業体験を継続し本校の特色を活かした海外研修を実施することができた。「おおむね充実した」との解答も2名あり、継続実施に向け、安全で充実した研修内容の企画・広報に努める。
		専門教科の授業・実習で工業英語に触れた割合50%以上	多くの専門教科において、専門用語を中心に授業で学習し、定期テストで定着度を確認している。	A	教科書で英単語の記載が増加しており、内容理解の深化を図るためにも継続が必要。
	信頼される社会人となりうる生活習慣を確立する。	・挨拶がしっかりとできている95%以上 ・身だしなみがしっかりとできている90%以上 ・生徒指導件数30%以上減少	【挨拶93.6%】 【服装94.4%】 【生徒指導件数】件数は同じであったが、指導人数は45%減少した。 基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成のため年度当初の計画に基づき、組織的に取り組むことができた。全体として落ち着いた生活態度で、生活面に関する生徒の自己評価も高かった。	A	ほとんどの生徒は生活習慣がしっかりしているものの、中には意識の低い生徒も一部いるため、今後も組織的な取り組みを継続していくことが大切である。学年、分掌、家庭などと関係を蜜にすることで、予防的指導を充実させると共に、迅速に対応する指導を心がけていきたい。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	自主的、実践的な態度育成のため、体験活動を充実する。	内容の見直しを行い、参加しやすい方法を確立し、参加者の満足度を向上させる。	企業研究参加者は42名、インターンシップ参加者は125名であった。参加者の意識は高く、事後のレポート作成やプレゼンテーションを含め積極的な取組であった。	A	1年次から実施している様々な体験学習は、進路決定の段階で大きな効果を発揮している。しかし、部活動や補講との兼ね合いで、参加できない生徒もいる。生徒が参加しやすく、部活動や補講担当者の協力が得られる体制作りを現在検討している。
エ	持続可能な社会の一員としての素養の育成に努める。	3Sができていて90%以上	<p>【82.2%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境部との連携による掲示や広報活動を通し生徒の意識を高めることができた。全体としては3Sの意識が定着しており、ゴミの分別やリサイクルの活動もできている。 ・年度初めに校内全ての清掃箇所にて清掃啓発ポスターを配布した。3Sの意味については生徒の理解度が増したと考えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動の不十分な箇所や、ほんの一部であるがコンビニのゴミ類の持ち込みもあった。今後も継続的な呼びかけや、定時制との連携、生徒会・委員会など生徒の自主的な活動に向けた手助けが必要である。私物・貴重品の管理もしっかりした意識を持たせたい。 ・3Sということへの認知度をポスター配布や集会での話などを利用して「出来ている」と答える生徒の割合を高めていきたい。
		工業技術研究所等からの講師招請、インターンシップ	工業技術研究所との連携はできなかったが、静岡県電業組合等から講師を招聘し、高度な専門的知識を得ることができた。	B	生徒の興味関心を喚起するために、大学や研究機関を見学する機会や講師の招聘を継続的に検討し、積極的に行う必要がある。
	社会の一員として、人間尊重の精神を涵養し、人権意識の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等の開館時間の延長 ・図書館来館延べ年7,000人以上 	<p>【9,992人】</p> <p>図書館来館者数は1月30日現在で、当初の目標を達成した。 (月)と(水)の放課後は18:00まで開館時間を延長した効果もあり、放課後の利用者数だけで600人程増えた。</p>	A	図書館NEWS、新着図書紹介を定期的に発行。文化祭では図書委員会として初めて出展し、図書館の情報発信に努めた。特設コーナーとしては、就職・小論文対策コーナーを充実させ、進路実現に役立てた。書籍の貸出冊数も増加傾向にあり、読書感想文コンクールでは、2名の生徒が県の選考で入賞を果たした。放課後の開館時間延長は、事務補助員に変形労働時間制をとってもらうことで週2日のみ実現したが、今後も継続可能な実施方法を検討していきたい。
	相談室だよりを月1回以上発刊する	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室と相談室との連携をとる努力をした。 ・担任や学年と連携し、支援が必要であると思われる生徒や気になる生徒を把握し、状況をみながらスクールカウンセラーの援助も受け、組織的に支援をした。親しみが持てる相談室にするために毎月相談室だよりを発行した。 	A	困り感のある生徒や特別支援が必要な生徒をある程度を早期に把握することができた。スクールカウンセラーを効果的に活用できたと思われる。特別支援体制については確率出来始めているが、更に指導計画を検討する必要がある、組織の再構築も含め検討したい。相談室だよりは毎月発行できた。	

様式第3号

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	特別支援学校と半数以上の学科で連携	課題研究のテーマ設定との兼ね合いで、本年度は実施できなかった。	C	次年度以降の課題として、継続して検討していく。
	交通ルール遵守、マナーを心掛けている90%以上	【91.5%】 ・生徒の交通安全意識の高揚のため、当初の計画に基づき、生徒・職員による街頭指導や講話、交通安全教室、アンケートなど実施した。交通ルールやマナー遵守に対する生徒の意識も高い。	A	・生徒の交通安全に対する自己評価は高いものの、交通事故発生件数は昨年より若干増加した。 交通指導カードをもらう生徒もまだいるため、今後も学校・保護者・地域が連携し意識を高める活動を継続的に行っていく必要がある。
行事の見直しやHPによる広報を充実させる。	・週2回の更新を実施 ・定期的な外部評価の実施	HPを積極的に更新した。4月から1月末までの45週で159件となり、週平均3.5回の更新を行った。	A	今後も生徒会・部活動・各学科への呼び掛けを行い、継続してHPを活用した広報活動を心がけていく。
業務の見直しを行い、組織のスリム化と効率化を進める。	スクラップ&ビルドの実施	運営委員を中心に行事の見直しと組織のスリム化について意見を集め、企業研究とインターンシップの統合、保育実習の変更について具体的に動き出した。	B	教職員の意識改革を進めると共に、学校全体の業務の見直しを継続し、組織のスリム化と効率化を推進する。
教育環境の整備に努める。	全員の職員が校務で共有サーバを使用す	全職員が共有サーバを活用できる環境を提供することができた。各業務で共有サーバを活用していた。	A	サーバの老朽化に伴いディスクの故障が発生したが、業務に影響を与えることなく対応することができた。データの破損に備えてサーバの更新を検討したい。
	点検の日を設け、PFI担当者と月1回以上点検を実施	月1回以上点検を行い、危険箇所や修繕箇所は速めに対応することができた。	B	点検及び早めの対応はできた。今後もPFIと連絡を密に連携して、危険箇所や修繕箇所への早期対応に努める。
	コスト意識を醸成し、消費電力量5%以上削減	消費電力量5%削減は、猛暑、施設の貸出しの増等により削減できなかった。	B	自動感知式電灯の時間調整及び節電徹底の呼びかけを行った。今後は、施設の見回りの実施、掲示板等による情報発信などを行い節電に努める。